

日本描画テスト・描画療法学会第 33 回大会
大会プログラム・抄録集
一部抜粋

2024 年 9 月 22 日(日)～9 月 23 日(月)
会場:金沢歌劇座

ごあいさつ

このたび日本描画テスト・描画療法学会第33回大会を金沢の地で開催させていただくこととなりました。今大会のテーマは「描画テスト・描画療法との出会い」です。描画テスト・描画療法との最初の出会い、これまでとは違う魅力に気づく出会い、描画を介した人との出会い、描画との出会いに立ち会い見守る場面など、「出会い」にまつわる多彩な場面がそれぞれの参加者に思い描かれることと期待しています。

1997年の第7回以来、本当に久しぶりにこの地で学会を開催するにあたり、大会を通じて描画テスト・描画療法の魅力を知ってもらい、文字通り「出会い」の機会をつくること、また描画を介した人と人との交流の場にしようと願って準備を進めて参りました。ワークショップ、研究・事例の発表とディスカッション、シンポジウムは、学術的かつ臨床的な描画テスト・描画療法との出会いを促してくれることと思います。

また、特別講演は石川県を拠点に活動されている九谷焼作家の柴田有希佳先生をお招きします。石川県の伝統工芸の世界に触れていただくのもこの地での大会開催で得られる「出会い」と思っております。先生の制作の原点や素材へのまなざしのお話を伺えるのが楽しみです。

会場である金沢歌劇座は、21世紀美術館、金沢城、兼六園、鈴木大拙館など、金沢のさまざまな観光スポットとも近い場所にあります。道すがら金沢の街並みをお楽しみいただけるでしょう。9月下旬は少し暑さも和らいでいる頃かと思えます。みなさまのお越しをお待ちしております。

日本描画テスト・描画療法学会第33回大会

大会会長 大矢 寿美子

目 次

I	参加者へのご案内	1
II	発表者へのお願い	3
III	会場へのアクセス	4
IV	会場案内	6
V	プログラム	11
VI	認定描画療法士研修抄録	17
VII	ワークショップ抄録	23
VIII	特別講演案内	31
IX	シンポジウム抄録	32
X	研究発表・事例検討抄録	35

I 参加者へのご案内

1. 受付

1) 認定描画療法士研修会・ワークショップ受付(当日のお申込みはありません)

日時:2024年9月22日(日) 9:30~

場所:金沢歌劇座

・早期申込みをされた方の受付は必要ありません。

大会プログラム・抄録集とともにお送りした名札を着用のうえ、そのまま受講される教室へお越しください。

・直前申込みの方は受付(2階ロビー, p. 7~8の案内図参照)にて手続きを済ませ、大会参加証(名札)をお受け取りください。その際、入金確認が必要になりますので、郵便振替領収書をお持ちください。

2) 大会受付

日時:2024年9月23日(月) 8:45~

場所:金沢歌劇座 2階ロビー

・事前に申込みをされた方は、受付の必要はありません。抄録集とともにお送りした名札を着用のうえ、そのまま研究発表・事例検討会場、講演・シンポジウム会場までお越しください。

・直前申込みの方は、入金確認が必要な場合があります。郵便振替領収書をお持ちください。

・9月23日(月)のみ、当日受付を行います。当日にお申込みの方は、受付(2階ロビー, p. 9~10の案内図参照)にて手続きを済ませ、大会参加証(名札)をお受け取りください。

3) 証明書の発行

- ・ 9月22日(日)の午前・午後の2枠を受講した方に、臨床心理士研修ポイントのための研修証明書を発行します。再発行はできませんので、各自で保管してください。研修証明書は午後の研修会・ワークショップ終了時に会場にて配付します。
- ・ 9月23日(月)の大会参加については研修証明書を発行しません。大会参加証(名札)が学会参加の証明として使用できますので、大切に保管してください。なお、ポイントは(公財)日本臨床心理士資格認定協会の「臨床心理士教育・研修規程別項」に定められたとおりです。

4) お問い合わせ

- ・ 第33回大会運営委員会へのお問合せは、メールにてお願いします。前日や当日などの緊急の場合もメールでご連絡ください。当日大会運営スタッフは、スタッフ用名札をつけています。ご用の方は、スタッフにお申しつけください。

〒921-8501 石川県野々市市扇が丘 7-1 金沢工業大学心理科学研究所 大矢研究室内
日本描画テスト・描画療法学会第33回大会運営委員会
E-mail:byoga33kit@gmail.com

2. 参加費一覧

・ 参加費は以下のとおりです。参加費は、郵便振替にて加入者名:株式会社コムラ, 口座番号: 008000-3-218146 までお振込みください(振込期限は以下のとおりです)。

	申込期限(振込期限)	会員	非会員	大学院生
9月22日(日)参加費 ワークショップ・ 認定描画療法士資格 認定研修会	早期: 7月31日まで (振込期限: 8月2日)	¥8,000	¥8,000	¥6,000
	直前: 8月9日以降8月21日まで (振込期限: 8月23日)	¥9,000	¥9,000	¥7,000
	8月22日以降~大会当日	大会当日の参加受付は行いません。		
9月23日(月・祝)参加費 研究発表・事例検討 特別講演、シンポジウム	早期: 7月31日まで (振込期限: 8月2日)	¥6,000	¥6,500	¥3,000
	直前: 8月9日以降8月21日まで (振込期限: 8月23日)	¥7,000	¥7,500	¥4,000
	8月22日以降~大会当日	¥7,000	¥7,500	¥4,000

3. 書籍販売

- ・ 以下の会場にて書籍販売を行います。
9月22日(日)、9月23日(月)ともに、会議室10(1階)にお立ち寄りください。

4. 抄録集の販売

- ・ 参加費をお支払いいただいた方には、会員・非会員を問わず1部を配付します。
- ・ 追加で必要な方には、当日1部1,000円にて受付で販売します。

5. 昼食

- ・ 昼食用のお弁当の事前申し込みはありません。大会中は会場周辺の飲食店・コンビニ等をご利用ください。

6. クローク

- ・ 9月22日(日)、9月23日(月)ともに、練習室(地下1階)にクロークを設けます。
手荷物をお預けの方はご利用ください。貴重品はご自身でお持ちください。お預かりできる時間は両日とも17時30分までです。ご了承ください。

7. お願い

- ・ 守秘義務・プライバシー保護のため、参加者は録音・録画、発表スライドの写真撮影を行わないでください。会場内では携帯電話の電源をオフまたはマナーモードにしてください。
- ・ ごみは各自でお持ち帰りいただきますようご協力をお願いします。

Ⅱ 発表者へのお願い

1. 発表時間

- ・ 研究発表は、発表時間 20 分、質疑・討議 10 分です。
- ・ 事例検討は、発表時間 40 分、質疑・討議 20 分です。時間厳守でお願いします。

2. 発表メディア

- ・ 可能なメディアは USB フラッシュメモリのみです。各自でバックアップデータもお持ちいただくことをお勧めします。
- ・ 会場に設置する PC 環境は Windows 10, Office 2019(PowerPoint 2019)です。発表データ作成の際は Windows 標準フォント(MS 明朝, MSP 明朝, MSP ゴシック等)をご使用ください。これ以外のフォントをご使用の場合は正常に表示できないこともあります。
*冊子の大会プログラムでは、office 2021(Power Point 2021)ですが、2019 です。
- ・ 発表用データを USB メモリでお持ちいただき、当日8:45～9:00の間に発表会場にて保存と動作確認をお済ませください。時間厳守でお願いします。動作確認のための発表用データの事前送付は受けませんので、ご了承ください。

3. 配付資料について

- ・ 当日配付する資料がある場合、発表の 30 分前(9 : 20 からの発表の方は 9 : 00)までに各会場係に提出してください。資料等のコピーは、大会運営委員会ではお引受けできませんので、発表者ご自身で準備をお願いします。

4. 守秘義務・個人情報保護について

- ・ 事例の発表では、個人情報保護の観点から、氏名、職場名、学校名、地名など個人が特定できるような情報は含めないでください。発表後に資料を回収する場合は、会場係にその旨お申し付けいただくとともに、「回収資料」と記すなどして確実な回収と守秘にご留意くださいますようお願いいたします。

Ⅲ 会場へのアクセス

■ 鉄道

JR北陸本線 金沢駅下車

関東方面から:北陸新幹線利用

関西/東海方面から:敦賀駅まで特急サンダーバード/特急しらすぎ乗車後、北陸新幹線に乗り換え

■ バス(金沢駅から会場まで約 20 分)

北陸鉄道バス 金沢駅東口バス3番のりば「東部車庫」「金沢学院大学」行きに乗車、本多町にて下車
(「香林坊」、「片町」、「広坂・21世紀美術館」のバス停からも徒歩圏内です)

城下町金沢周遊バス 金沢東口バス6番のりばから乗車、本多町にて下車

問い合わせ:北陸鉄道株式会社 <http://www.hokutetsu.co.jp/>

まちバス(土日祝のみ運行) 金沢駅東口JRバスのりば(5番)から乗車、本多町にて下車

まちバスホームページ <http://www.machibus.com/>

■ タクシー

JR金沢駅東口から約 15 分 注)タクシー乗り場が混みあうことが増えています。

■ 小松空港から

タクシーで会場まで約 45 分

JR金沢駅まで小松空港リムジンバスで約 40 分、JR金沢駅より上記路線バスに乗り換え

www.hokutetsu.co.jp/airport-bus

小松空港発着便は羽田、新千歳(札幌)、福岡、那覇です。

■ 自家用車

富山方面からは北陸自動車道 金沢東インターから約 25 分

福井方面からは北陸自動車道 金沢西インターから約 20 分

注)会場の有料駐車場の収容スペースは限られています。公共交通機関をご利用ください。

■ 全国から石川県へのアクセス

石川県の観光旅行さいと「ほっと石川旅ネット」

<https://www.hot-ishikawa.jp/acsess/index.html>

■ 周辺地図

会場へのアクセス <https://www.kagekiza.gr.jp/access/>

武蔵が辻・金沢駅方面



犀川大橋方面

IV 会場案内

9月22日(日)

内容	会場
受付	2階ロビー
クローク	練習室 【地下1階】
認定描画療法士研修会NK①～⑤	会場Ⅲ (会議室9) 【1階】
ワークショップW1、W4	会場Ⅱ (会議室6・7) 【2階】
ワークショップW2、W5	会場Ⅴ (大練習室) 【3階】
ワークショップW3、W6	会場Ⅰ (大集会室) 【2階】
書籍販売	会議室10 【1階】
常任理事会・編集委員会	会場Ⅳ (会議室3・4) 【3階】
大会本部	会議室5 【2階】
講師控室	談話室 【3階】
スタッフ控室	会議室1, 2, 8 【2階, 3階】

9月23日(月)

内容	会場
受付	2階ロビー
クローク	練習室 【地下1階】
研究発表・事例検討 研究1～3, 事例1	会場Ⅰ (大集会室) 【2階】
総会, 特別講演, シンポジウム	//
研究発表・事例検討 研究4～6, 事例2	会場Ⅱ (会議室6・7) 【2階】
研究発表・事例検討 研究7～8, 事例3	会場Ⅲ (会議室9) 【1階】
研究発表・事例検討 研究9～11, 事例4	会場Ⅳ (会議室3・4) 【3階】
研究発表・事例検討 研究12～14, 事例5	会場Ⅴ (大練習室) 【3階】
書籍販売	会議室10 【1階】
理事会	会場Ⅲ (会議室9) 【1階】
大会本部	会議室5 【2階】
講師控室	談話室 【3階】
スタッフ控室	会議室1, 2, 8 【2階, 3階】

会場内の移動について

3階の会場Ⅳ(会議室3・4)と会場Ⅴ(大練習室)は直接行き来できません。2階か1階からお越しください。

会場Ⅴ(大練習室)へ1階から行く時は、奥のエレベーターか階段をお使いください。

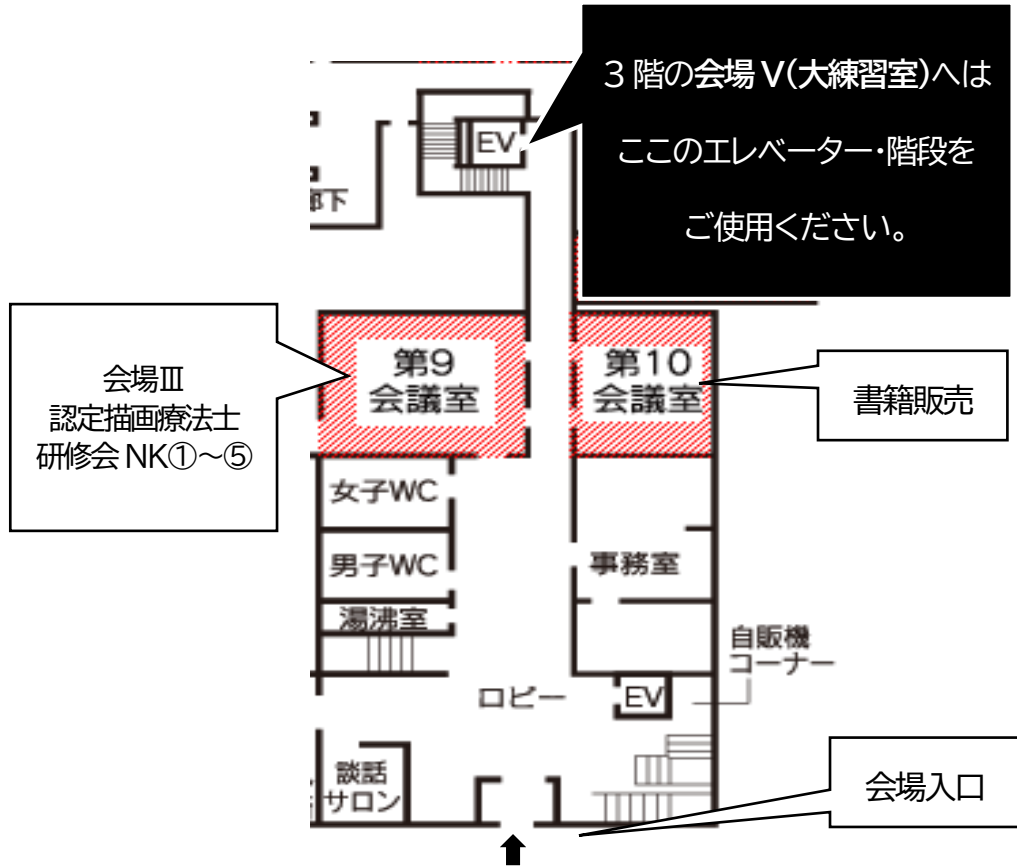
会場内のWi-fi接続について

会場内は概ねWi-fiの接続が可能ですが、会議室5(大会本部)、会議室6(会場Ⅱ)、会議室8は接続できません。

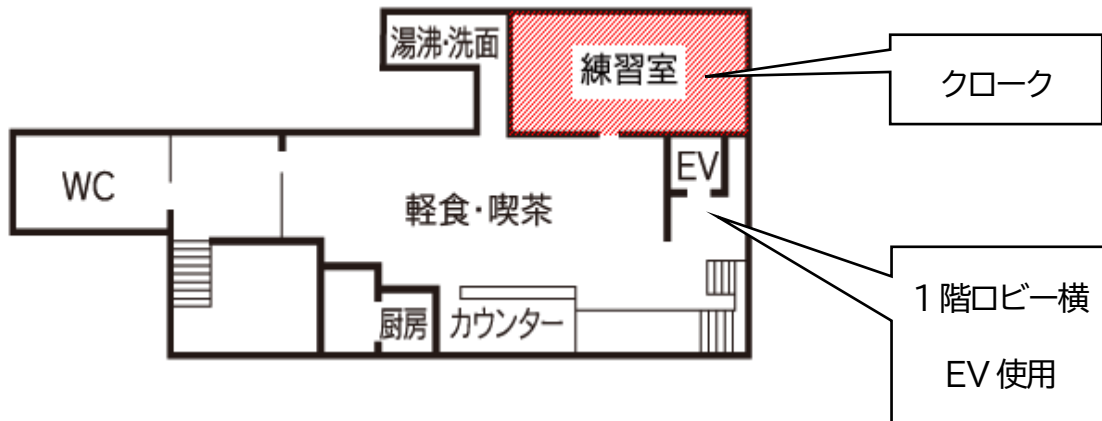
会場内 案内図

9月22日(日)

【1階】

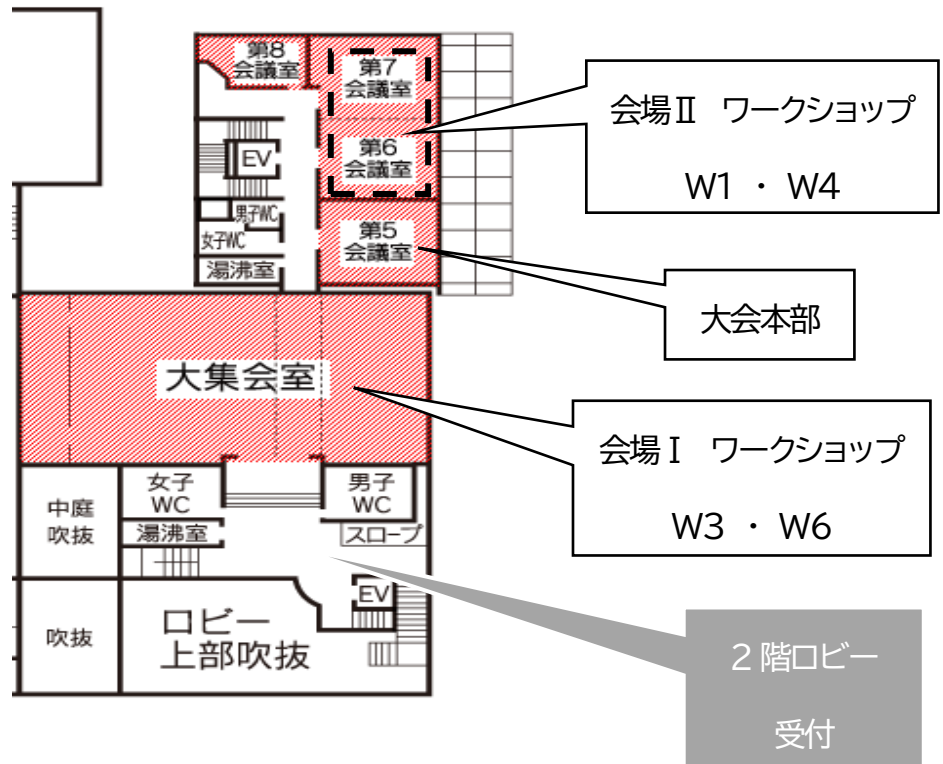


【地下1階】

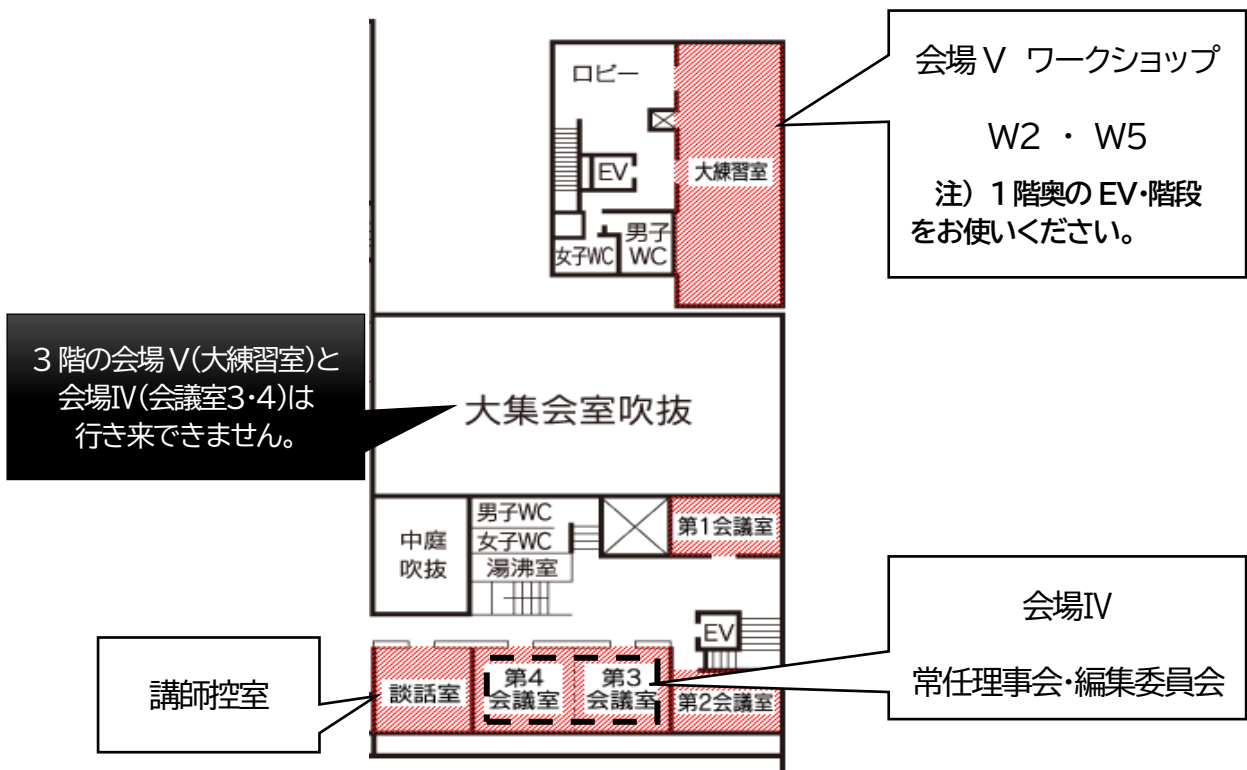


9月22日(日)つづき

【2階】

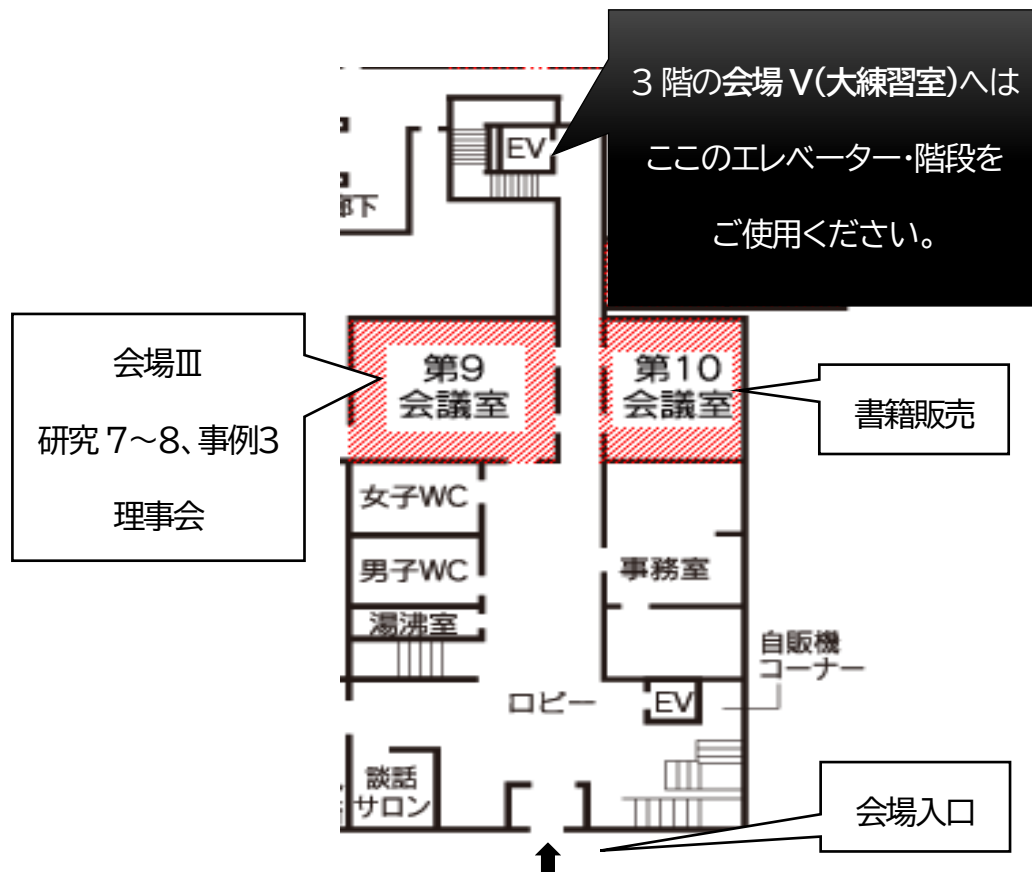


【3階】

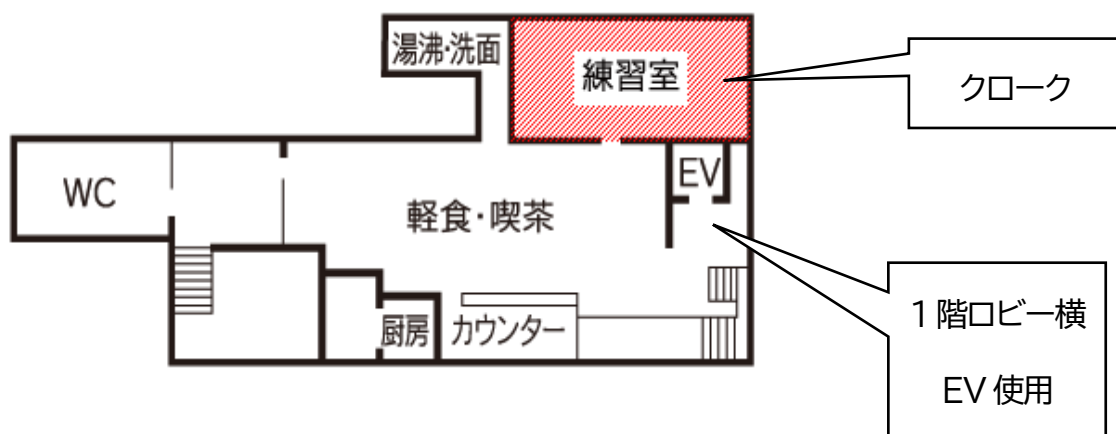


9月23日(月)

【1階】

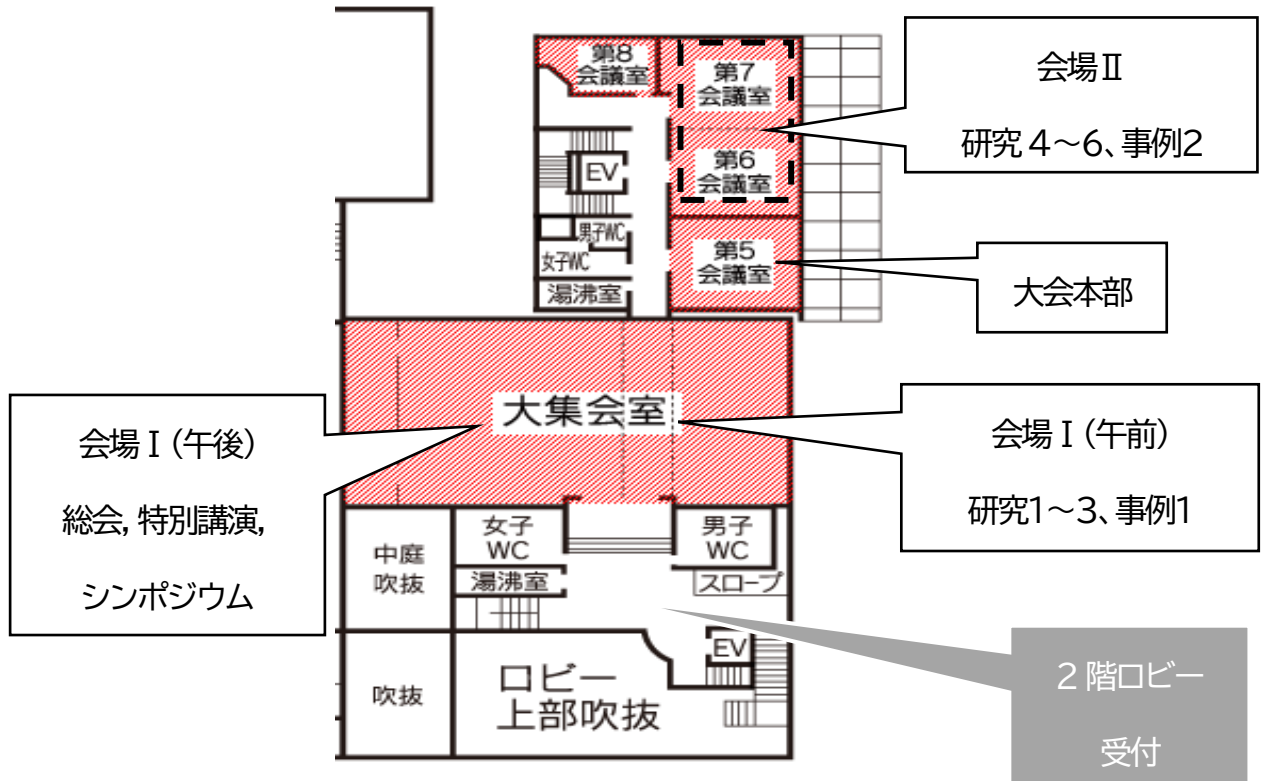


【地下1階】

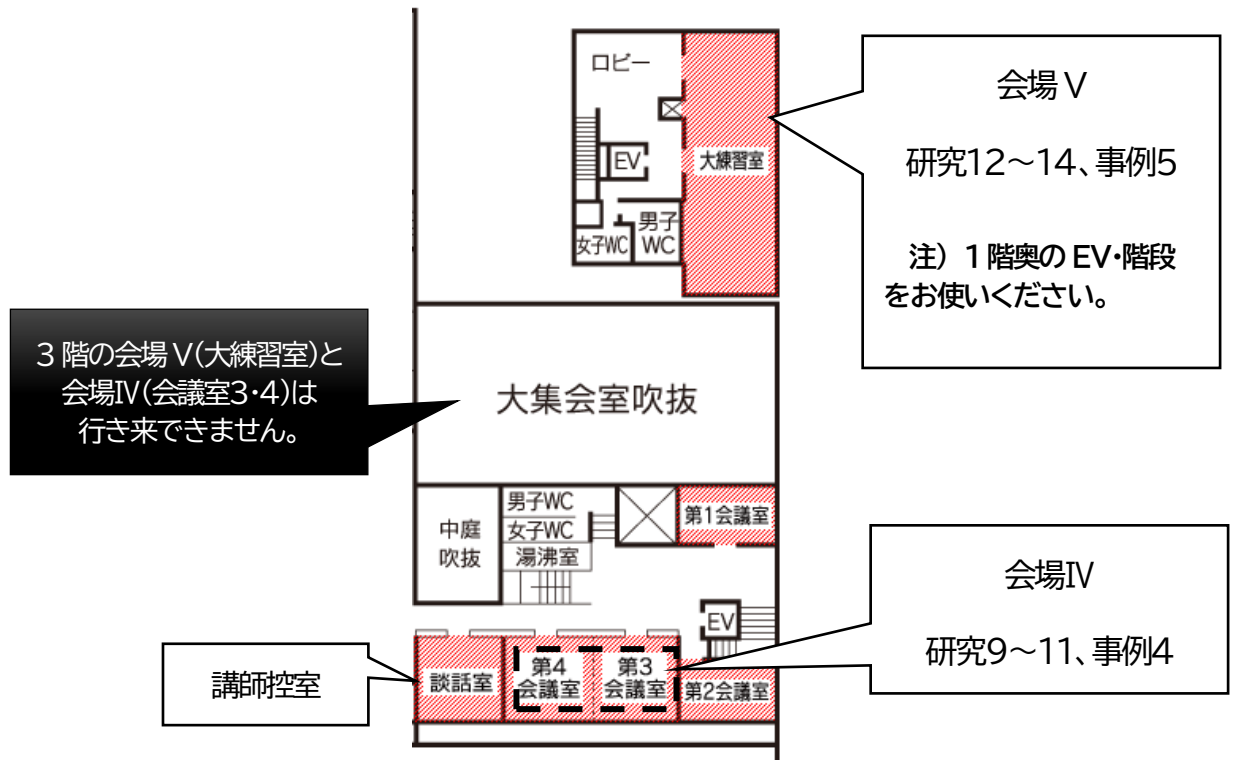


9月23日(月)つづき

【2階】



【3階】



V プログラム

1. 9月22日(日)ワークショップ・認定描画療法士研修会

(タイムテーブル)

会場Ⅰ	会場Ⅱ	会場Ⅲ	会場Ⅳ	会場Ⅴ
大集会室(2階)	会議室6・7(2階)	会議室9(1階)	会議室3・4(3階)	大練習室(3階)
10:00~12:30 W3 バウムテスト	10:00~12:30 W1 描画療法入門	10:00~11:00 NK① 描画による 支援の基礎と職業倫理		10:00~12:30 W2 神経発達障害児者 への臨床描画の活用
昼休み	昼休み	11:10~12:10 NK② 心理アセス メントの基礎		12:40~13:30 常任理事会
		昼休み	13:40~14:40 NK③ 心理面接の 基礎	
14:00~16:30 W6 描画法の所見と フィードバック	14:00~16:30 W4 誘発線描画法	14:50~15:50 NK④ 描画による 心理アセスメントの基礎	16:30~17:00 編集委員会	
		16:00~17:00 NK⑤ 描画による 心理面接の基礎		

※認定描画療法士研修基礎コース(NK)は、認定描画療法士資格認定のための研修会ですが、どなたも受講できます。また、NKとWを自由に組み合わせることもできます。ただし、資格取得を希望される方は、必ずNK①~NK⑤の5つのコースを受講してください。

1)認定描画療法士研修会

基礎コース(NK):

午前

NK①	10:00~11:00	描画による支援の基礎と職業倫理	鈴江 毅	静岡大学名誉教授
NK②	11:10~12:10	心理アセスメントの基礎	岡田 弘司	関西大学

午後

NK③	13:40~14:40	心理面接の基礎	松瀬 喜治	佛教大学
NK④	14:50~15:50	描画による心理アセスメントの基礎	寺嶋 繁典	関西大学
NK⑤	16:00~17:00	描画による心理面接の基礎	片山はるみ	姫路大学

2)ワークショップ(W)

午前

W1	10:00~12:30	描画療法入門	牧瀬 英幹	中部大学
W2	10:00~12:30	神経発達障害児者への臨床描画の活用	木谷 秀勝	山口大学名誉教授
W3	10:00~12:30	バウムテスト	奥田 亮	大阪樟蔭女子大学

午後

W4	14:00~16:30	誘発線描画法	寺沢英理子	田園調布学園大学 ERI カウンセリングルーム
W5	14:00~16:30	HTPP テスト	高橋 依子	大阪樟蔭女子大学
W6	14:00~16:30	描画法の所見とフィードバック	馬場 史津	中京大学

2. 9月23日(月) 研究発表・事例検討・総会・特別講演・シンポジウム

1)研究発表・事例検討

研究発表:発表 20分 質疑・討論 10分

事例検討:発表 40分 質疑・討論 20分

(タイムテーブル)

会場Ⅰ	会場Ⅱ	会場Ⅲ	会場Ⅳ	会場Ⅴ
大集会室(2階)	会議室6・7(2階)	会議室9(1階)	会議室3・4(3階)	大練習室(3階)
9:20~10:50 研究1~3	9:20~10:50 研究4~6	9:20~10:20 研究7~8	9:20~10:50 研究9~11	9:20~10:50 研究12~14
		10:20~11:20 事例 3		
10:50~11:50 事例 1	10:50~11:50 事例 2		10:50~11:50 事例 4	10:50~11:50 事例 5
		11:50~12:50 理事会		
13:00~13:40 総会				
13:50~15:00 特別講演				
15:10~17:00 シンポジウム				

会場Ⅰ 大集会室【研究発表1～3】 司会：奥田 亮・武藤 翔太

【研究1】 9:20～9:50

マニピュレーションの視座を介した統合型 HTP 法のフィードバック・プロセスの再検討
武藤 翔太(京都ノートルダム女子大学)

【研究2】 9:50～10:20

慢性疼痛患者における HTPP テストの特徴について
兵 純子(高清会 高井病院)
高橋 依子(大阪樟蔭女子大学)

【研究3】 10:20～10:50

リワークプログラム前後で実施した HTPP テストに関する考察
星 光子(阪南病院)
吉川 征延(阪南病院)
香川 香(関西大学人間健康学部)

会場Ⅰ 大集会室【事例検討1】 司会：奥田 亮 助言者：寺沢英理子

【事例1】 10:50～11:50

場面緘黙の小学生男児との描画でのやり取り
“絵しりとり”と“絵しりとり交互作文”がもたらした効果の検討
山根 大樹(福田西病院)

会場Ⅱ 会議室6・7【研究発表4～6】 司会：鈴江 毅・西牧 陽子

【研究4】 9:20～9:50

重複聴覚障害者への描画を介した関わりの試み
西牧 陽子(大正大学臨床心理学部)

【研究5】 9:50～10:20

境界域の認知機能障害を有する統合失調症者の樹木画テストに示された特徴
井上菜々(医療法人恒昭会藍野花園病院)
香川 香(関西大学人間健康学部)

【研究6】 10:20～10:50

精神科外来作業療法科で描くこと
藤澤 三佳(京都芸術大学)

会場Ⅱ 会議室6・7【事例検討2】 司会：鈴江 毅 助言者：松瀬 喜治

【事例2】 10:50～11:50

外的要因を強く受けて面接が中断した事例ー描画療法等を活用した 2 事例からー
中野 修(北陸学院大学)

会場Ⅲ 会議室9【研究発表7～8】 司会: 尾藤ヨシ子・末次 絵里子

【研究7】 9:20～9:50

幼児期における人物描出の変化過程への着目—ある幼稚園での縦断調査から—
末次絵里子(西九州大学)

【研究8】 9:50～10:20

家族画にみられる幼児の特徴(第2報)
北村 由美(関西大学)

会場Ⅲ 会議室9【事例検討3】 司会: 尾藤ヨシ子 助言者: 生地 新

【事例3】 10:20～11:20

描くことを介して交流できるようになった ASD 患者とのプレイセラピー
作山 洋子(たちメンタルクリニック/上本町心理臨床オフィス)

会場Ⅳ 会議室3・4【研究発表9～11】 司会: 新宮 一成・滑川 瑞穂

【研究9】 9:20～9:50

抑うつ傾向に関連したフルテッグ描画テストとバウムテストの描画特徴
滑川 瑞穂(明治学院大学心理学部心理学科)
横田 正夫(原病院)

【研究10】 9:50～10:20

二枚ぬり絵法の部分的特徴と抑うつとの関連
五十嵐 愛(東京大学医学部附属病院)
津川 律子(日本大学文理学部)
横田 正夫(原病院)

【研究11】 10:20～10:50

風景構成法からみた性別不合一WAIS-IVのテストバッテリーから—
松岩 七虹(医療法人桐葉会きじまこころクリニック)

会場Ⅳ 会議室3・4【事例検討4】 司会: 新宮 一成 助言者: 横田 正夫

【事例4】 10:50～11:50

描画テストでどこまで精密なアセスメントが可能か？
～バウムテスト3枚法とフルテッグテスト(CWS)による累犯受刑者の理解
家崎 哲(府中刑務所)

会場V 大練習室【研究発表12~14】司会: 市来百合子・馬場史津

【研究12】 9:20~9:50

夢の木の教示から思い起こされるイメージの検討
ー健全群の内的体験のインタビューからー
波多野佑樹(中京大学大学院心理学研究科臨床・発達心理学専攻)
馬場 史津(中京大学心理学部)

【研究13】 9:50~10:20

中学生の雨中人物画に表現される場面特徴
平野 真理(お茶の水女子大学)
廣田 愛海(お茶の水女子大学)
岩根 由佳(お茶の水女子大学)
高橋 哲(お茶の水女子大学)

【研究14】 10:20~10:50

中学生の雨中人物画と関連するストレス反応とレジリエンス
廣田 愛海(お茶の水女子大学)
平野 真理(お茶の水女子大学)
岩根 由佳(お茶の水女子大学)
高橋 哲(お茶の水女子大学)

会場V 大練習室【事例検討5】司会: 市来百合子 助言者: 高瀬 由嗣

【事例5】 10:50~11:50

描画からみる子どもの心の変化
吉田小百合(アートセラピー研究会)

VI 認定描画療法士研修会抄録




描画による支援の基礎と職業倫理

鈴江 毅(静岡大学名誉教授)

今日、心理的支援の分野において、倫理的な問題は最重要課題の一つである。描画による支援の実践には、描画テストや描画療法などに関する専門的で膨大な知識や技能の習得が不可欠であるが、これらを活かす前提条件として高度な倫理観を備えている必要がある。これらは公認心理士や臨床心理士としての、倫理綱領などにも謳われており、全世界共通の重要事項となっている。

描画による支援の基礎として、まず、描画テストとしての側面から、心理アセスメント（心理査定）、投影法などについて、次に描画療法としての側面から、心理療法、芸術療法について説明する。特に非言語的コミュニケーションと言語的コミュニケーションとの対比において、解説する。

Schneidman, E.(1956)の図式

Level of Awareness	Type of Test	Type of Perception
CONSCIOUS	 Paper-and-Pencil	EGO DEFENSIVE
PRECONSCIOUS	 Picture-Thematic	PSYCHO-SOCIAL
UNCONSCIOUS	 Rorschach	PRIMARY

査定(描画テスト)と治療(描画療法)

描画テスト		客観度(高↑………↓低)
1) 模写や再生	ベンダーゲシュタルト	
2) 絵画完成法	ワルテック描画テスト	
3) 課題画	①樹木画(バウム・テスト) ②HTP:HTPP, KHTP, SHTP, 家屋画 ③人物画・自画像、DAM、雨中人物画 ④家族画:KFD、CFD、CKFD、動物家族画、縄跳び家族画、ドライブ家族画 ⑤その他:風景構成法、洞窟画、卵画、間取り図・見取り図、夢描画	
4) 自由画	スクイグル、なぐり描き法、誘発線画法、Finger-painting	
描画療法		

客観度(高↑………↓低)

倫理的な面では、インフォームド・コンセントや守秘義務などの職業倫理、ならびに研究方法や成果の公表などに係わる研究倫理に関する基本的事項を解説する。

以下に「職業倫理の7原則」を示す。

- 第1原則：相手を傷つけない、傷つけるようなおそれのあることをしない
- 第2原則：十分な教育・訓練によって身につけた専門的な行動の範囲内で、相手の健康と福祉に寄与する
- 第3原則：相手を利己的に利用しない
- 第4原則：一人一人を人間として尊重する
- 第5原則：秘密を守る
- 第6原則：インフォームド・コンセントを得、相手の自己決定権を尊重する
- 第7原則：すべての人々を公平に扱い、社会的な正義と公正と平等の精神を具現する

金沢(2006)

以上、いずれも描画療法士として活動するための基本的事項であり、十分な理解の上で実践力を養う必要がある。

心理アセスメントの基礎

岡田 弘司(関西大学人間健康学部)

ケースフォーミュレーションを確実に行ったり、心理支援を効果的に実践したりする上で、心理アセスメントのあり方が非常に重要になる。本研修では、心理アセスメントの意義と目的などを確認した後、アセスメントを行う際の重要な観点やポイントについて理解をはかる。また、面接、行動観察、生活史、医学的情報、心理テストといったアセスメントツールの使い方等についても整理し、最後にはトラウマインフォームドケアの視点からも心理アセスメントを捉えてみる。

なお、本研修では簡単な架空事例を用いる予定である。

1. 心理アセスメントとは
2. 心理アセスメントの意義・目的など
3. 心理アセスメントの観点など
 - (1) 生物的側面
 - (2) 心理的側面
 - (3) 社会的側面
4. 心理アセスメントの行い方
 - (1) インフォームド・コンセントからフィードバックまでのプロセス
 - (2) 5つの情報源と使い方
 - ・面接
 - ・行動観察
 - ・生活史
 - ・医学的情報
 - ・心理テスト
 - (3) 心理テストを用いる際の重要事項など
5. 心理アセスメントとトラウマインフォームドケア

心理面接の基礎

松瀬 喜治(佛教大学)

(公財)日本臨床心理士資格認定協会(2023)によれば、「臨床心理士の専門業務の中核的な行為としての面接は、査定に込められた意味と等質的なCIの“訴え”や“問題”をどう意味づけているか……CI自身の価値観についての限りない尊重を通じてのかかわりによって、もたらされる援助効果への道程」と定義している。この道程は、行動療法、認知療法、精神分析的な心理療法そして描画療法いずれの方法をとにしても面接の体験知(臨床の知)のもたらす普遍的な関与の姿(イメージ)であろうと考えられる。今回は、心理士(心理師)CIとの間で成立する「関係性」に基づく心理空間において、重要な概念である genuineness、participant observation に焦点を当てることを通じて、心理面接の基礎を受講者の皆様と共に考えたい。

医師の場合、人(医師)が人(患者)にかかわり、人(患者)の病んでいる状態(病気)を元の元気な姿に戻すことによって、その影響の専門性を人(患者)にもたらす。

教師の場合、人(教員)が人(児童生徒)にかかわり、教育目標である学力(読み書き算数)と人間のあるべき姿(正直で、誠実で、優しく、勇気と正義を尊ぶ等)を、子どもの学ぶ権利として教える専門家である。では、臨床心理士(公認心理師、描画療法士他)は、

人(クライアント)にかかわり、人(クライアント)に影響を与える心の専門家である。

医師・教員と異なること、

一律・共通的な目標に相当するもの(客観的・共通的な価値観)を人にかかわる側の人(臨床心理士・セラピスト他)が持つことを必須にするとは限らない点である。

あくまで、クライアントのかけがえのない存在固有性、いわばクライアントの数だけある主観的・個別的な価値観を尊重しつつ、その人の本来の自己を実現していく過程に寄り添いお手伝いをしようとする専門家である。

＜どのようなアプローチ法を用いるにしても (evidence based approach と narrative approach、bio-psycho-social model、Scientist-Practitioner Model) あらゆる人間社会の問題にコミットする汎用的専門行為者であることが、臨床心理士(公認心理師)には求められていると筆者は考えている＞

河合隼雄(1988)「心の専門家とは、人間の心についての知識をよく知るとともに、心の問題に悩む人に対して適切な方法によって接することのできる人でなくてはならない」と述べる。この際、「いわゆる自然科学的な客観性を必要とするときと、むしろ、主観的にかかわってゆきつつ、それを同時に観察するというような態度を必要とするときとがある。」さらに「心の専門家は、一人一人の場合に応じて何らかの個別的な発見が必要であるという点で他の専門家とは異なっている。つまり、それは、人間の心に対する謙虚な態度によって支えられているのである。……元の状態に復するのではなく、そこには何らかの創造過程が存在するのであり、それについては、心理療法家は、クライアントとともに新しい発見の道を共にするが、既成の法則に縛られていたのでは、そんなことは生じないのである」と述べている。

＜すべての臨床実践への姿勢として共通するものが次の二つの概念であると考える＞

Rogers,C.R.が晩年最も重視したカウンセラーの態度 **genuineness** 誠実性

Sullivan H.S.の重視した治療者の態度 **participant observation** 関与しながらの観察

描画による心理アセスメントの基礎

寺嶋 繁典(関西大学)

描画テストは適用範囲が広くテスト・バッテリーの1つとして、心理アセスメントの場面で用いられる機会の多い投映法です。描画を心理テストとして適切に用いるためには、①投映法としての描画テストの特徴と得られる情報、②描画テストの実施方法、③描画テストの結果の整理と解釈の方法、④臨床場面における描画テストの適用上の留意点と結果の活用などについて十分に理解している必要があります。本研修では、描画テストを用いた心理アセスメントの基礎について理解を深めたいと思います。

(1)投映法としての描画テストの特徴と得られる情報

ロールシャッハ・テスト、TAT(絵画統覚検査)、SCT(文章完成法)などの投映法は、主として言語的な反応を求める心理テストです。一方、描画テストは絵という非言語的な反応、すなわち graphic communication を媒介とする投映法です。描画テストの結果の整理や解釈を行うにあたり、得られる情報やその特性などについて理解していることが重要になります。

(2)描画テストの実施方法

心理テストとして描画を適切に用いるためには使用する用具や教示を統一するなど、一定の手続きのもとで実施することが求められます。臨床現場で利用される機会の多いHTPテスト(HTPPテスト)、バウムテスト、家族画テストなどの実施方法についてご紹介します。

(3)描画テストの結果の整理と解釈の方法

描画テストから有用な情報を得るためには、描画指標の出現や頻度などの量的評価(形式分析)を基本としながら、内容の分析や、絵から発信されるメッセージを直接理解する全体的評価などの質的評価を含めて総合的に検討する必要があります。描画テストの量的評価と質的評価の方法についてご紹介します。

(4)臨床場面における描画テストの適用上の留意点と結果の活用

臨床場面では、描画テストを他の心理テストと組み合わせて用いるのがよいでしょう。特に成人の場合はロールシャッハ・テストやSCTなどと組み合わせ、これらのテスト結果、及び面接・行動観察などの情報も併せて総合的な解釈を行い、所見を作成することも重要でしょう。

描画による心理面接の基礎

片山 はるみ(姫路大学看護学部)

心理面接とは、心理的な困難を解決しようとしている相談者とそれを支援する者との関係性の進展と終結の過程で、主に相談者の自己洞察と自己成長を促すための心理的空間であり、支援をする者の理論や技法に基づいた行為のことを意味します。そして、描画による心理面接とは、心理臨床家とクライアントとの人間関係が構築される過程で、描画を用いることによって“共感”“納得”“理解”“再生”といった心情が生まれること、とされます。

この研修では基本事項として、以下の内容の学修を予定しています。

1. 心理面接とは
2. 描画による心理面接とは
3. 描画療法の特徴
4. 描画療法の心理療法的な利益
5. 描画療法の種類
6. 経験事例の紹介
7. 体験

VII ワークショップ抄録

【W1】

描画療法入門

牧瀬 英幹(中部大学)

絵を描くとき、クライアントは多くのことを語っています。そうした語りを描画とともに「きく」ことから描画療法が始まり、また、そこから様々な可能性が拓かれていきます。時に、そのような流れはクライアントの夢と結びつき、その接点において主体の再構成を促す契機がもたらされることとなります。

本ワークショップでは、「スキュグル」や「描画連想法」の考え方を確認しながら、描画療法の基礎を学んでいきたいと思います。

1. 描画テストと描画療法
2. 「エスがあったところに、私が生じなければならない」(Wo Es war, soll Ich werden.)
3. 人間と言語との関係性 (存在する主体と考える主体は中心軸を共有しない)
4. 失われた対象=対象 a を浮かび上がらせ、主体の再構成を促す
5. 描画と夢をつなぐ
6. ウィニコットのスキュグル
7. 描画連想法

*当日は、「描画連想法」を実際に体験しながら学びを深めていただきたいと考えておりますので、鉛筆数本(可能であれば、2B以上の柔らかいもの)をご持参下さい。

神経発達障害児者への臨床描画の活用

「自分らしく生きる」ことへの理解と支援を中心に

木谷 秀勝(山口大学名誉教授)

【概要】

今回のWSでは、既に大会HP上で示した概要を基盤としながら、以下の内容に沿って、神経発達障害児者が「自分らしく生きる」姿とそこから生じる葛藤の世界の理解について臨床描画を通して深めることを目的にする。

1. 発達障害から神経発達症/神経発達障害へ

DSM-5から大幅に修正された「神経発達症/神経発達障害」の概念とその背景について理解しながら、神経発達障害(今回のWSでは、この診断名を使用します)児者に必要となる支援の方向性について、well-beingの視点を織り込みながら整理することから始める。

2. 精神力動的視点から「日常生活の困難さ」の理解へ

次に、従来からの臨床描画法の精神力動的な視点による解釈の限界について、事例を通して検討したうえで、神経発達障害児者が「もっとも困っているのは、日常生活全般」であることを理解していく。さらに、この視点を明確にする臨床描画法として、「○△□物語法」を体験してもらうと同時に、自閉症スペクトラム障害児者が描く「○△□物語法」から見えてくる「日常生活の困難さ」の理解を深める。

3. 発達障害への支援から「自分らしく生きる」姿への支援へ

最後に、事例を通して、神経発達障害児者が抱える内在化障害(不安、抑うつ、心身症、睡眠障害など)、感覚障害、発達性協調運動障害などの支援について理解を深める。特に、「自分らしく生きる」姿とそこから生じる現実生活との葛藤の世界、また「豊かだからこそ、傷つきやすい心の世界」の理解を通して、神経発達障害児者に本当に必要な支援とは何かを検討する。

【参加者へのお願い】

今回のWSでは、「○△□物語法」のワークを行なう予定です。HBの鉛筆1・2本、消しゴムを各自で用意してください。

以上

バウムテスト

奥田 亮(大阪樟蔭女子大学)

これまで日本描画テスト・描画療学会第30回・第31回大会において、バウムテストのワークショップを行ってきました。それらと同様に本ワークショップでも、バウム（樹木）を描く時に、描き手にどのような心の動き・働きが起こっているのか、という点からバウムテストの解釈を考える姿勢を提示します。具体的には、バウムの描き始めや幹（先端/下端）・樹冠・根・地面・実など各部を描いている時に、それぞれどのような体験が起こっているのかについて、バウムテストの様々なテキストや日本におけるバウムテストの多くの研究を踏まえながら、バウムテストを体験的に解釈する視点を提供します。そのような視点を持つことは、バウムテストの解釈を考えていく際に起こりがちな「幾つもある解釈仮説のどれを選べばいいのだろう」といった戸惑いや分からなさ、一定の体験的な確からしさと深みをもたらす（理解の方向性を与える）、と考えています。

ワークショップの進行としては、以下のような内容を予定しています。

1. はじめに
2. バウムテストの解釈に対する様々な視点・立場と「描画体験」からの理解
3. 描画時の基礎体験要素について
4. バウムテストの描画体験
 - 1) 描画前～描き始め
 - 2) 幹
 - 3) 幹先端処理と樹冠部（枝・包冠線）
 - 4) 幹下端処理と根・地面
 - 5) 実、教示について
5. 実際にバウムを検討する
6. むすびに

ワークショップでは最初に、描画時の体験から解釈を考えることや、描画行為に含まれる基礎的な体験（絵を描く時に生じている心の動きの諸要素）についてお話します。その上で、バウムテストで想定される各部位（幹、樹冠、根、実…）の描画プロセスに従って、その描画体験から解釈を考える視点を具体的に示します。また、バウムテストの教示（「実のなる」と言うかどうか）に関する論考にも触れます。そして後半で、幾つか実際の描画例について検討する予定です。

ワークショップ全体を通じて、受講生の方々には実際にバウムを描くプロセスを何度もなぞり、吟味していただきながら、解釈をあれこれ考えるワークを体験していただきたいと思います。

誘発線描画法

寺沢 英理子(田園調布学園大学・ERI カウンセリングルーム)

人は様々な方法で表現をします。描画もその一つですが、言葉と比べると何層にも多重な意味が同時に表現されます。その分、明確さという点では劣ると感じることもあります。クライアントセラピスト関係の中ではむしろ多くのメッセージを受け取れるという利点として働くことも少なくありません。

また、サイコセラピーの場面においては、クライアントを大切にすることが目に見える形で展開するので、描画療法の学びはサイコセラピーそのものの学びの確認にもなります。このようなクライアントとセラピストのやり取りの可視化にとどまらず、表現されたもの（作品）が残るといった特徴があり、クライアント自身もサイコセラピーによって変化した自分に気づきやすくなります。そして、この気づきを語る時、多重な意味から選別された言語表現となり、「分かる」という感覚につながっていくのです。

さて、今回は、様々な描画療法の技法の中から、「誘発線描画法」を取り上げます。私は、「誘発線描画法」は心の釣りのようなイメージがあります。形の異なる8つの釣り針を心のいろいろな深さに降ろしていくようなイメージです。それらの釣り針が心の奥深くからあるいは意外と浅いところから釣り上げてくる8つ描画表現は、紛れもなく表現者の心の断片であり、そのすべてがとても大切なものなのです。表現された「心」を大切に感じたり扱ったりすることもワークショップのなかで十分に感じ取っていただきたい点です。

2時間半のワークショップのなかでは体験も重視したいのですが、誘発線の歴史を簡単にお伝えすることは省けないとも思っています。中井久夫が開発した「誘発線」から発展した誘発線描画法について、簡単な変遷の歴史を説明しつつ実際に体験をしていただこうと思います。「並列型誘発線法」「ワルテッグ誘発線法」の実施、そしてその後に行う「再構成法」までの技法習得とともに、臨床場面での有効性についても事例を通して実感していただけるよう進めたいと考えています。

技法の体験に関しては、本来ならば、クライアント役とセラピスト役になっていただき描画療法の醍醐味を味わっていただきたいのですが、この点に関しては、参加者の皆様とも相談しながら臨機応変にさまざまな体験様式を並行して実践してみたいと考えています。

「並列型誘発線法」「ワルテッグ誘発線法」の用紙などは、大会事務局でご用意くださることになっていますので、下記に記すものをご持参ください。ここでお願いですが、心を表現する大切な道具ですので、100円ショップのものは避けていただけるとよいと思います。滑らかさや発色に難があるものが多いので、できるだけご自分の心を表現するのにふさわしい道具をご用意ください。

※マッキー黒（極細）、色鉛筆、はさみ、スティックのり、セロテープ、可能ならクレヨンもお持ちください。

HTPPテスト

高橋依子(大阪樟蔭女子大学)

クライアントの心の内面を理解して必要な援助を行うために実施する投映法の中でも、描画テストは、クライアントが刺激を受けいれていく他の投映法と異なり、みずから自発的に表出する方法であり、クライアントの内面世界を生き生きと理解できる。描画テストにはさまざまな種類があり、とらえたいパーソナリティの側面によって、課題が選ばれる。その中で、パーソナリティを多面的にとらえたいときには、家、木、人を4枚の用紙に描くHTPPテストが用いられる。

今回は、HTPPテストの基本的な実施法とともに、事例を取り上げて、どのようにしてクライアントの適応水準、精神的成熟度、情緒の安定度、自己認知、対人関係などを捉えていくかについて解説したい。4つの課題を用いるのは、それぞれ以下の面がとらえやすいからであるが、絵は多義的であり、これ以外にもいろいろな意味が込められる。

H：家屋画	成長してきた家庭、家族関係、家庭をどのように眺めているかなど
T：樹木画	明確に意識されていない自己像など
P：人物画（同性像）	やや意識された自己像、重要な人物、人間一般への認知など
P：人物画（異性像）	対人関係、特に異性との関係、重要な人物など

現在の自己像や認知の仕方が表現されるだけでなく、過去の状態や、将来の不安や期待が表出されることもある。

HTPPテストの実施法

教示：今から絵を描いていただきます。上手下手は関係ないので気楽に描いてください。

しかしいい加減に描かないで、できるだけいねいに描いてください。

- 1枚目の用紙を横向きに置き、「家」を描くように教示し、描けたら、
- 2枚目を縦向きにして、「1本の木」を、
- 3枚目を縦向きにして、「人を1人、全身」を、描けたら描画像の性別を尋ね、
- 4枚目を縦向きにして、「(反対の性別の)人を1人、全身」を描くよう教示。

描画テスト解釈の基礎理論

- ① 描画の発達
- ② 空間象徴
- ③ 図示的コミュニケーションによる象徴

描画テストの解釈

- ①全体的評価：描かれた絵を全体として眺め、描画から得られる全体的印象を重視し、描画の意味を把握する。絵の上手下手にとらわれてはいけない。
- ②形式分析：用紙上の描画像の位置、サイズ、筆圧、写実の程度、濃淡、抹消、ストロークとラインの性質など、どのように描いたかの分析
- ③内容分析：何を描き、何を強調し、無視したかの検討
 - 家屋画：屋根・壁・扉・窓・その他
 - 樹木画：樹冠・幹・根・その他
 - 人物画：顔とその部分・首・胴体・手足・その他

描画テストのフィードバック

クライアントの状態に合わせて、理解できる内容を理解できる表現で説明する。
治療の一環であることを意識して返す。

描画法の所見とフィードバック

馬場 史津（中京大学）

描画法は実施の簡便さが一つの特徴ですが、解釈や所見をまとめる段階になると格段に難しさが増します。その理由の一つとして、Graphic Communication から Verbal Communication への転換作業を求められることが挙げられます。全体的評価として理解した、言葉にならない被検者のありようを言葉にして表現するわけですから、難しいのは当然です。さらに全体としての1枚の絵を形式分析・内容分析として分解し、特徴を見つけることはできても、一人の被検者像としてまとめることはとても難しい作業です。Klopfer (1960/1967) は、経験が乏しく訓練されていない検査者は、検査に現れた特徴を「料理の本」の一覧表のようにする傾向があると指摘しました。「被検者にはAの特徴があり、Bの傾向がある」といった情報を羅列した所見からステップアップするためにはどのようにすればよいのでしょうか。今回のWSでは描画法の初学者を想定し、一つの考え方を示してみたいと思います。

まずは心理テスト全般の所見の書き方について、これまでの文献をレビューしながら、所見を書くうえで大切なことを確認します。また、描画テストでは特徴の解釈仮説を丸暗記するのではなく、個々の描画指標の“コアイメージ”を理解することが必要です。英語を実践で正しく自然に使うためには、日本語訳を超えた単語の本当の意味感覚を学ぶべきであり、例えば前置詞の on は「～の上」と覚えるのではなく、「接触」という核となる意味を掴むことが必要である（大西・マクベイ，2020）との考えと同じです。描画指標においても“コアイメージ”を用いることで、描画指標を掛け合わせ、被検者像を立体的にまとめることができます。

被検者像を【依頼者に伝える所見】では、被検者の日常生活につなげながら、検査者の理解を自分の言葉で正確に記述します。検査者が受け取った Graphic Communication の情報は、検査者に馴染みのない言葉を使って記述すると、検査者の理解とは離れた被検者像にすり替わってしまう可能性があります。依頼者が受け取る被検者像は所見の言葉が形作ると考えて、検査者の伝えたいことを表現できる言葉、依頼者と共有できる言葉を選びます。

検査者の理解を【被検者に伝えるフィードバック】は所見とは異なります。描画テストには、被検者自身が受け入れやすいレベルから、被検者自身が気づいていないレベルまで様々なレベルの情報が含まれます。また、再検査に影響しないフィードバックという視点から、描画テストにおけるフィードバックの注意点についても考えます。

VIII 特別講演案内

IX シンポジウム抄録

【特別講演】

九谷で描く心の音叉～植物との共鳴～

講演：柴田 有希佳（九谷焼作家）

司会：大矢 寿美子（金沢工業大学）

講師プロフィール：福井県出身 日本工芸会正会員

日本工芸会正会員、山田義明氏に師事

現在、石川県能美市で制作

(instagram)_shibatayukika

(公式 HP) shibatayukika.com

柴田有希佳先生の作品の魅力は、自然の草木や動物がさまざまな器に宿って語りかけてくるような描写や遊び心あふれる構図にあるのではないかと思います。数多ある九谷焼の作品の中でも静かな存在感を抱かせる先生の作品や創作の原点を覗かせていただこうと思います。

講演内容：

A) 自己紹介

- ・ 陶芸を志したきっかけ
- ・ 山田先生に弟子入りした経緯や自身の作品の紹介など

B) 九谷焼について

- ・ 九谷焼の簡単な紹介

C) 制作工程

- ・ 制作の行程を画像で説明

D) 植物を描くということについて

- ・ 自身の自然についての考え方

テーマ： 描画テスト・描画療法との出会い

シンポジウムも大会テーマと同じ「描画テスト・描画療法との出会い」で企画しました。経験豊かでそれぞれの個性が光るお二人の臨床家に話題提供をしていただきます。それぞれの先生方のこれまでの臨床・研究・教育のご経験の中に、さまざまな「描画テスト・描画療法との出会い」があったことと思います。話題提供とそれに続く指定討論を含めたディスカッションが、参加者のみなさまの描画との新たな出会いに寄与することができれば幸いです。

話題提供者： 浦田 英範(西南学院大学)

「こころの理解と支援のための描画法」

描画テストを本格的に用いたのは、演者が大学院の修士論文の作成の時である。動的家族画(KFD)を施行し子どもの両親の認知像を調査するものであった。また、心の表現法としての描画に衝撃を受けたのは、1995年の阪神淡路大震災の災害支援に参加したときであった。これらの経験を通して、演者は必要であれば、子どもたちへのアプローチとして描画法を用いるときがある。当日は、その考え方や描画法についてお話ししたい。

話題提供者： 香川 香(関西大学)

「描画との出会いと実践への学び」

描画テスト・描画療法は、多様な分野で多様な対象者に数多く活用されている有用な技法ですがどのような出会いや学びを経て実践へ至っているのでしょうか。まずは描画との出会いをふり返るとともに、体験的な描画との出会いの例を通して、出会いのなかで生じる感情や学習意欲等について提示いたします。また、描画の魅力や課題を再確認しつつ、出会いから実践や研究へと繋がる教育や学びについて、皆様と検討させていただきたいと考えています。

指定討論者： 高橋 依子(大阪樟蔭女子大学)

司会者： 木谷 秀勝(山口大学名誉教授)／大矢寿美子(金沢工業大学)

X 研究発表・事例検討抄録

省略

